



2024 年 11 月 14 日

2024 年第 3 四半期業績レポート(7-9 月)

※2024 年 11 月 6 日にドイツ・ヘンケル本社が発表した業績レポートの日本語訳版です。本業績レポートは英語が原本であり、その内容・解釈については英文原本が優先します。

2024 年度の見通しを更新

ヘンケル、第 3 四半期も成長の勢いを維持

- グループの売上高は約 5,500 百万ユーロ増、既存事業売上高は 3.3%増
- 両事業部門が既存事業売上高の増加を牽引：
 - アドヒーズ テクノロジーズ(接着技術)事業部門は、既存事業売上高成長率 3.7%増と好調
 - コンシューマーブランド事業部門は、既存事業売上高成長率 2.7%増と堅調に推移
- ネットゼロへのロードマップを通じて意欲的な気候保護目標を拡大:2045 年までに温室効果ガス排出量をネットゼロにする目標
- 2024 年度の売上高と収益の見通しを更新 – 収益予想範囲の上位に達する公算が大きい

デュッセルドルフ – ヘンケルは、2024 年第 3 四半期にグループ売上高約 5,500 百万ユーロを達成しました。堅調な価格上昇とグループ全体の販売量増加に牽引され、既存事業売上高成長率は 3.3%増と好調でした。名目売上高成長率は、前年の同四半期に比べ 1.0%増加しました。

ヘンケル最高経営責任者のカーステン・クノーベルは、「ヘンケルは第 3 四半期も引き続き成果を挙げ、より一層の成長を遂げました。これには、両事業部門における既存事業のさらなる成長が寄与しました。また、第 3 四半期には堅調な粗利益を達成し、事業やブランドへの投資拡大を継続することができました。調整後売上高営業利益率(EBIT マージン)は、相応に堅調な増加を示しました。これは、当社が成長アジェンダに沿って正しい方向に進んでいることを示しています」と述べています。

さらにクノーベルは、「2024 年度もヘンケルにとって成功の年となり、年度途中で引き上げた売上高と収益の目標を達成できると確信しています。したがって、本日、当社は業績見通しを更新しました。年初来の好調な業績を踏まえ、グループの各収益は予想範囲の上位に到達する公算が大きいと見ています。これは、調整後 EBIT マージンと調整後の優先株(一株)あたり利益(EPS)成長率の両方に言えることです」と述べています。

ヘンケルはまた、戦略的成長アジェンダの実施においてもさらなる進展を遂げました。このような状況の中、ヘンケルはサステナビリティへの取り組みを強化しており、プロセスの一環としてネットゼロへのロードマップを策定し、バリューチェーン全体での排出量削減目標を拡大しました。

クノーベルは、「私たち全員が責任を持ち、パリ協定で定められたように、地球温暖化を 1.5°C に抑える必要があります。当社のロードマップは、2024 年までの温室効果ガス排出量のネットゼロ達成に向

けた取り組み内容をまとめたものであり、SBTi(Science Based Targets initiative: 科学的根拠に基づく目標イニシアチブ)の認証を取得しています。ヘンケルはこの目標を達成するため、バリューチェーン全体で幅広い対策を実施します」と説明しています。

事業部門別売上実績

百万ユーロ	売上高			増/減	既存事業 売上高
	2023年 第3四半期	2024年 第3四半期			
第3四半期					
ヘンケルグループ	5,440	5,492	1.0%	3.3%	
接着技術事業部門	2,711	2,800	3.3%	3.7%	
コンシューマーブランド事業部門	2,695	2,653	-1.6%	2.7%	
1~9月					
ヘンケルグループ	16,366	16,305	-0.4%	3.0%	
接着技術事業部門	8,186	8,275	1.1%	2.5%	
コンシューマーブランド事業部門	8,060	7,919	-1.8%	3.7%	

接着技術事業部門では、全事業分野の貢献により、第3四半期に堅調な既存事業売上高成長率を達成しました。コンシューマーブランド事業部門でも、主に全世界のヘアケア事業部門に牽引され、既存事業売上高成長率は好調に推移しました。

グループ売上実績

2024年第3四半期におけるグループの売上高は5,492百万ユーロとなり、名目売上高は1.0%増加しました。買収・売却による売上高への影響は、プラス1.2%でした。為替変動は、3.6%減と売上高にマイナスの影響を及ぼしました。既存事業売上高成長率(為替変動と買収・売却の影響の調整後)は3.3%増でした。これは、堅調な価格上昇とグループ全体の販売量増加に牽引されました。

2024年1~9月の売上高は16,305百万ユーロとなり、名目売上高は0.4%減少しました。既存事業売上高成長率は、価格上昇と販売量増加に牽引され、3.0%増と堅調な伸びを記録しました。

グループ売上実績

百万ユーロ	2023年 第3四半期	2024年 第3四半期	2023年 1~9月	2024年 1~9月
売上高	5,440	5,492	16,366	16,305
前年同期比	-9.0%	1.0%	-3.1%	-0.4%
為替変動による影響	-6.3%	-3.6%	-3.9%	-2.4%
為替変動による影響の調整後	-2.7%	4.5%	0.8%	2.1%
買収・売却による影響	-5.5%	1.2%	-3.4%	-1.0%
既存事業売上高	2.8%	3.3%	4.1%	3.0%
うち、価格による影響	8.3%	2.1%	10.8%	2.4%
うち、販売量による影響	-5.5%	1.2%	-6.7%	0.6%

第3四半期における既存事業売上高の増加は、欧州、IMEA(インド・中東・アフリカ)、アジア太平洋および中南米地域が牽引しました。北米地域では、両事業部門の既存事業売上高がマイナス成長となりました。

地域別売上高

	欧州	IMEA	北米	中南米	アジア太平洋	全社	ヘンケルグループ
百万ユーロ							
2024年7~9月の売上高 ¹	2,047	580	1,509	401	915	40	5,492
2023年7~9月の売上高 ¹	2,040	594	1,517	420	837	34	5,440
前年同期比	0.4%	-2.3%	-0.5%	-4.4%	9.3%	-	1.0%
既存事業売上高	0.7%	19.6%	-1.7%	6.1%	6.4%	-	3.3%
2024年のグループ売上高に占める割合	37%	11%	27%	7%	17%	1%	100%
2023年のグループ売上高に占める割合	37%	11%	28%	8%	15%	1%	100%

¹ 会社の所在地を基準とした分類。

また、2024年1~9月における既存事業売上高の堅調な伸びは、北米を除く全地域が牽引しました。

地域別売上高

	欧州	IMEA	北米	中南米	アジア太平洋	全社	ヘンケルグループ
百万ユーロ							
2024年1~9月の売上高	6,118	1,712	4,542	1,265	2,556	111	16,305
2023年1~9月の売上高 ¹	6,324	1,610	4,621	1,254	2,438	120	16,366
前年同期比	-3.3%	6.4%	-1.7%	0.8%	4.9%	-	-0.4%
既存事業売上高	1.4%	20.6%	-1.6%	2.1%	5.8%	-	3.0%
2024年のグループ売上高に占める割合	38%	11%	28%	8%	16%	1%	100%
2023年のグループ売上高に占める割合	39%	10%	28%	8%	15%	1%	100%

¹ 会社の所在地を基準とした分類。

接着技術事業部門の売上実績

接着技術事業部門は、2024年第3四半期に2,800百万ユーロの売上高を達成しました。名目売上高は、前年の同四半期から3.3%増加しました(前年同期:2,711百万ユーロ)。既存事業売上高成長率(為替変動と買収・売却の影響の調整後)は3.7%増でした。この増加は販売量が堅調に拡大したことによるもので、価格は前年同期からあまり上昇しませんでした。為替変動により、売上高には3.3%減とマイナスの影響があった一方、買収・売却では2.8%増とプラスの影響がありました。

2024年1~9月における接着技術事業部門の名目売上高は、1.1%増の8,275百万ユーロとなりました。接着技術事業部門の既存事業売上高成長率は、主に販売量に牽引され、2.5%増と堅調な伸びを記録しました。

接着技術事業部門の売上実績

百万ユーロ	2023年 第3四半期	2024年 第3四半期	2023年 1~9月	2024年 1~9月
売上高	2,711	2,800	8,186	8,275
グループ売上高に占める割合	50%	51%	50%	51%
前年同期比	-9.5%	3.3%	-3.3%	1.1%
為替変動による影響	-6.5%	-3.3%	-3.6%	-2.4%
為替変動による影響の調整後	-3.0%	6.5%	0.3%	3.5%
買収・売却による影響	-3.8%	2.8%	-3.0%	0.9%
既存事業売上高	0.8%	3.7%	3.3%	2.5%
うち、価格による影響	4.9%	-0.2%	8.3%	0.1%
うち、販売量による影響	-4.1%	3.9%	-5.0%	2.4%

接着技術事業部門では、3つの事業分野すべてが寄与し、第3四半期に堅調な既存事業売上高成長率を達成しました。モビリティ&エレクトロニクス事業本部は、既存事業売上高成長率が3.9%増と堅調な伸びを達成しました。この増加を牽引したのは、エレクトロニクス事業における2桁台の成長と、インダストリアル事業の非常に堅調な成長でした。オートモーティブ事業の売上高は、市場需要の減速により全体として減少しました。パッケージング&コンシューマーグッズ事業本部の既存事業売上高成長率は2.7%増と好調で、このうちパッケージング事業は需要の改善により堅調な既存事業売上高成長率を達成しました。コンシューマーグッズ事業もプラスの既存事業売上高成長率を計上しました。クラフトマン、コンストラクション&プロフェッショナル事業本部の既存事業売上高成長率は、4.5%の増加を達成しました。この増加に寄与したのはジェネラルマニュファクチャリング&メンテナンス事業および一般用接着剤事業で、いずれも非常に堅調な売上増加を記録しました。また、コンストラクション事業も好調な成長を遂げました。

事業本部別売上高

百万ユーロ	売上高			
	2023年 第3四半期	2024年 第3四半期	増/減	既存事業 売上高
接着技術事業部門	2,711	2,800	3.3%	3.7%
モビリティ&エレクトロニクス事業本部	980	989	1.0%	3.9%
パッケージング&コンシューマーグッズ事業本部	855	841	-1.6%	2.7%
クラフトマン、コンストラクション&プロフェッショナル事業本部	876	969	10.6%	4.5%
	2023年1~ 9月	2024年1~ 9月		
接着技術事業部門	8,186	8,275	1.1%	2.5%
モビリティ&エレクトロニクス事業本部	2,879	2,926	1.6%	4.8%
パッケージング&コンシューマーグッズ事業本部	2,588	2,520	-2.6%	0.5%
クラフトマン、コンストラクション&プロフェッショナル事業本部	2,719	2,829	4.0%	2.1%

地域別に見ると、第3四半期の接着技術事業部門は、3つの事業分野すべてに支えられ、**欧州**においてプラスの既存事業売上高成長率を達成しました。一方**北米**では、モビリティ&エレクトロニクス事業およびパッケージング&コンシューマーグッズ事業の状況により、既存事業売上高はわずかにマイナス成長となりました。**IMEA**では、全事業分野の貢献により、既存事業売上高成長率は2桁増を達成しました。**中南米**では、主にモビリティ&エレクトロニクス事業およびクラフトマン、コンストラクション&プロフェッショナル事業に牽引され、既存事業売上高は大幅に増加しました。**アジア太平洋**地域の既存事業売上高成長率は、非常に堅調に推移しました。これには3つの事業分野すべてが寄与しており、特に中国での事業展開がプラスの影響を与えました。

コンシューマーブランドの売上実績

コンシューマーブランド事業部門では、**2024年第3四半期の売上高**が2,653百万ユーロとなり、**名目売上高**は前年の同四半期より1.6%減少しました。**既存事業売上高成長率**(為替変動と買収・売却による影響の調整後)は、引き続き非常に堅調な価格構成に牽引され、2.7%増と好調な売上拡大を達成しました。一方、現在推し進めているポートフォリオ最適化措置が、販売量にマイナスの影響を及ぼしました。売上高は為替変動の影響により3.9%減少し、買収・売却による影響でさらに0.4%減少しました。

2024年1~9月におけるコンシューマーブランド事業部門の**売上高**は7,919百万ユーロで、**名目売上高**は前年同期比で1.8%の減少となりました。**既存事業売上高成長率**は、価格上昇に牽引されて3.7%増加しました。

コンシューマーブランドの売上実績

百万ユーロ	2023年 第3四半期	2024年 第3四半期	2023年 1~9月	2024年 1~9月
売上高	2,695	2,653	8,060	7,919
グループ売上高に占める割合	50%	48%	49%	49%
前年同期比	-7.6%	-1.6%	-2.3%	-1.8%
為替変動による影響	-6.3%	-3.9%	-4.2%	-2.6%
為替変動による影響の調整後	-1.3%	2.3%	1.9%	0.8%
買収・売却による影響	-7.5%	-0.4%	-4.0%	-2.9%
既存事業売上高	6.2%	2.7%	5.9%	3.7%
うち、価格による影響	11.9%	4.4%	13.3%	4.9%
うち、販売量による影響	-5.7%	-1.7%	-7.5%	-1.2%

ランドリー&ホームケア事業本部では、第3四半期の既存事業売上高成長率は0.9%の増加を達成しました。ランドリーケア事業では、主にポートフォリオ最適化措置の影響により、既存事業売上高がわずかにマイナスとなりました。一方、ホームケア事業では、食器用洗剤カテゴリーの売上2桁成長とトイレケア・カテゴリーの非常に堅調な売上拡大を主な要因として、既存事業売上高が大幅に増加しました。

ヘアケア事業本部では、既存事業売上高成長率が6.8%増と非常に好調に推移しました。中でもコンシューマー向け事業の売上高が大幅に増加しましたが、これは主にヘアスタイリング・カテゴリーの2桁成長に牽引されました。プロフェッショナル向け事業の既存事業売上高も非常に堅調に推移しています。

その他コンシューマー向け事業本部では、特に欧州の高成長に牽引され、2.0%増と堅調な既存事業売上高成長率を記録しました。

事業本部別売上高

百万ユーロ	売上高			既存事業 売上高
	2023年 第3四半期	2024年 第3四半期	増/減	
第3四半期				
コンシューマーブランド事業部門	2,695	2,653	-1.6%	2.7%
ランドリー&ホームケア事業本部	1,726	1,649	-4.4%	0.9%
ヘアケア事業本部	779	829	6.3%	6.8%
その他コンシューマー向け事業本部	190	175	-8.1%	2.0%
1~9月				
2023年 1~9月	8,060	7,919	-1.8%	3.7%
2024年 1~9月				
コンシューマーブランド事業部門	8,060	7,919	-1.8%	3.7%
ランドリー&ホームケア事業本部	5,179	4,974	-4.0%	2.3%
ヘアケア事業本部	2,347	2,437	3.8%	7.1%
その他コンシューマー向け事業本部	534	508	-4.9%	2.2%

地域別に見ると、第3四半期のコンシューマーブランド事業部門は、**欧州**でプラスの既存事業売上高成長率を達成しました。ヘアケア事業は堅調な売上増を記録しましたが、ランドリー&ホームケア事業はややマイナス成長となりました。**北米**では、主にランドリー&ホームケア事業のポートフォリオ措置により、全体的に既存事業売上高が減少しました。一方、北米のヘアケア事業は非常に堅調な成長を遂げました。**中南米**地域では、ヘアケア事業に牽引され、堅調な既存事業売上高成長率の伸びを記録しました。**IMEA**地域では、全事業分野で既存事業売上高が2桁成長を達成しました。**アジア太平洋**地域では、ヘアケア事業とランドリー&ホームケア事業の貢献により、既存事業売上高成長率は非常に堅調に推移しました。

当グループの純資産および財務状況

当グループの純資産および財務状況に2024年6月30日の状況から大きな変動はありませんでした。

今後の見通し

ヘンケルは、2024年度の**既存事業売上高成長率**を2.5~4.5%と見込んでいます。接着技術事業部門の既存事業売上高成長率は2.0~4.0%の範囲で、コンシューマーブランド事業部門の既存事業売上高成長率は3.0~5.0%の範囲で増加すると予想されます。

調整後売上高営業利益率(EBIT マージン)は、13.5~14.5%の範囲で増加すると予想しています。接着技術事業部門では、調整後売上高営業利益率が16.0~17.0%、コンシューマーブランド事業部門では同利益率が13.0%~14.0%の範囲で増加すると予想されます。

調整後の優先株(一株)あたり利益(EPS)は、為替変動の影響を除外して、20.0%増~30.0%増の範囲で推移すると予測しています。

また、2024 年度におけるその他の見通しは以下の通りです。

- 買収・売却: 名目売上高の増加に対する影響は中立的
- 外貨建て売上高の換算: 1 桁前半から半ばのマイナスの影響
- 直接材料費: 前年の平均値に比べて安定的に推移
- 250~300 百万ユーロの構造改革費用
- 有形固定資産および無形固定資産への投資による支出額は 650~750 百万ユーロ

ヘンケルについて

ヘンケルはブランド、イノベーション、テクノロジーにより、産業およびコンシューマー向け事業において世界中の市場をリードしています。アドヒーズテクノロジーズ(接着技術)事業部門は接着剤、シーリング剤、機能性コーティング剤市場のグローバルリーダーとなっています。コンシューマーブランド事業部門は特にランドリー&ホームケアやヘアの分野において、世界中の市場やカテゴリーをリードする地位を維持しています。ヘンケルには 3 つの強力なブランド、LOCTITE(ロックタイト)、Persil(パーシル)、Schwarzkopf(シュワルツコフ)があります。2023 年度の売上高は 215 億ユーロを超え、営業利益はおよそ 26 億ユーロでした。ヘンケルの優先株は、ドイツ株指数 DAX のリストに入っております。ヘンケルには長いサステナビリティの歴史があり、具体的な目標を掲げた明確なサステナビリティ戦略を推し進めます。1876 年に創業したヘンケルは現在、世界に約 48,000 名の社員を擁し、多様なチームが強固な企業文化、共通の価値観とヘンケルの社員をひとつにまとめる共通基盤である企業目的「Pioneers at heart for the good of generations」の元に結束しています。さらなる情報はこちら www.henkel.com をご覧ください。

ヘンケルジャパンホームページ: <http://www.henkel.co.jp>

ヘンケルジャパンフェイスブックページ: <http://www.facebook.com/HenkelJapan>

将来予測に関する記述

本情報には、Henkel AG & Co. KGaA.の経営陣による現在の予測および仮定に基づく将来の見通しが含まれています。将来予測に関する記述とは、英文中 expect, intend, plan, anticipate, believe, estimateなどの語句や同様の表現の使用を指しています。この情報に含まれる将来予測は、弊社経営陣による現時点での予測と予想に基づくものです。これらの記述は、その予測が結果的に正しくなることを保証するものではありません。Henkel AG & Co. KGaA. とその関連会社が実際に達成する将来の業績と結果は、多くのリスクと不確実性に左右されるため、将来予測に関する記述とは大きく異なる可能性があります。こうした要因の多くは、経済状況や競争の活動、その他市場要因など、弊社のコントロールを超えるものや事前に正確に予測することができないものです。ヘンケルは、これら将来予測をアップデートする意向はなく、またそれに関するいかなる義務を負うものでもありませんので、ご了承ください。

本資料には、適用される財務報告枠組みの中で明確に定義されておらず、代替的業績指標(非 GAAP 指標)であるかまたはその可能性のある補足的な財務指標が含まれています。これらの補足的な財務指標は、単独で解釈すべきではなく、また連結決算報告書に適用される財務報告枠組みに従って表示されたヘンケルの純資産、財務状況または経営成績の代替的な指標と見なすべきではありません。類似の名称の代替的業績指標を報告または記載している他の企業は、かかる指標を、ヘンケルとは異なる方法で計算している可能性があります。

本資料は情報提供のみを目的としており、投資助言を提供するものではなく、有価証券の売却の申し出または購入の勧誘を構成するものではありません。

コンタクト

Lars Witteck

Phone: +49 211 797 - 2606

Email: lars.witteck@henkel.com

Hanna Philipps

Phone: +49 211 797 - 3626

Email: hanna.philipps@henkel.com

Wulf Klüppelholz

Phone: +49 211 797 - 1875

Email: wulf.kluettelholz@henkel.com

— 本件に関する報道関係者からのお問合せ先 —

ヘンケルジャパン株式会社 広報室 小野尾 秀美

TEL: 03-5783-1219 (広報室代表) / Mobile: 070-1548-4840 /

Email: hidemi.onoo@henkel.com